

迎春 新年のあいさつ

あけましておめでとうございます。
区民の皆様には、新春をお健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、基本構想で掲げた「幸福実感都市あらかわ」の実現に向け「災害で一人の犠牲者も出さない、安全安心の街づくり」を目指し、「無事ですしール」等の配布による安否確認体制の充実に加え、あらかわ遊園永久水利施設を整備してから初めてとなる市街地訓練を行いました。また、待機児童解消に向けた保育施設の整備、リース方式による街路灯LED化の推進、三河島駅前自転車駐車場の開設など、区政の各分野で施策の展開を図り、着実に成果をあげることができました。さらに、今年3月には荒川区において「奥の細道千住あらかわサミット」が開催され、「奥の細道矢立初めの地」である本区を広く周知できるものと考えています。

一方、我が国の景気は緩やかな回復基調が続いているとされていますが、地域経済は消費の低迷など依然厳しい状況が続いています。本年は、地域経済の元気を取り戻し、区民の皆様のくらしを守ることに重要な課題であると考えています。

このような中、区議会では昨年5月、東京23区で初となる通年議会制を実施いたしました。

通年議会制となり、定例会の招集自体については、これまでどおり区長が行いますが、回数は「年1回」となり、招集日以降の本会議の開催（再開）は、全て議長の判断で行うことができるようになりました。今後は、議会が主体となって本会議を開催（再開）し、より一層、調査活動や政策立案活動を活性化させていくことで、区政の進展を図ってまいります。

また、この通年議会制の導入に合わせ、一般質問の持ち時間の拡大や、本会議の会議時間の延長についても改定しました。

新たな年を迎え、区議会といたしましては、区長と区議会が緊密な連携のもと、積極的な政策提言を通じ、区民の皆様の声を十分に反映させた的確な施策の展開を図ってまいります。

結びに、区民の皆様にとって本年が幸多い年となるようお祈り申し上げます。新年のあいさつといたします。



議長 北城貞治



副議長 萩野 勝

議案の審議結果

平成26年度定例会・11月会議

○賛成 ×反対 - 退席
太字は討論のあったことを示す

議案番号・議案名	会派名・結果 (数字は会派人員)							結果
	自由民主党 荒川区議会議員団	公明党 荒川区議会議員団	日本共産党 荒川区議会議員団	民主党・市民の会	あらかわ元気クラブ	日本創 新党	あらかわ正論の会	
	12	6	6	3	1	1	1	
議員提出議案(4件)								
第25号 「女性が輝く社会」の実現に関する意見書提出について	○	○	×	○	×	×	○	可決
第26号 地域の中小企業振興策を求める意見書提出について	○	○	○	○	○	○	○	可決
第27号 不燃化特区などによる従前居住者のための住宅について都営住宅の活用を求める意見書提出について	○	○	○	○	○	○	○	可決
第28号 JR東日本に地元自治体への説明を求める意見書提出について	○	○	○	○	○	○	○	可決
区長提出議案(16件)								
第61号 荒川区従前居住者用住宅条例	○	○	○	○	○	○	○	可決
第62号 荒川区学童クラブの運営に関する条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	可決
第63号 荒川区営運動場の設置、管理に関する条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	可決
第64号 荒川区民住宅条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	可決
第65号 平成26年度荒川区一般会計補正予算(第2回)	○	○	○	○	○	○	○	可決
第66号 (仮称) 荒川二丁目複合施設電気設備工事請負契約	○	○	○	○	×	×	○	可決
第67号 (仮称) 荒川二丁目複合施設空調設備工事請負契約	○	○	○	○	×	×	○	可決
第68号 (仮称) 荒川二丁目複合施設給排水衛生設備工事請負契約	○	○	○	○	×	×	○	可決
第69号 (仮称) 荒川二丁目複合施設昇降機設備工事請負契約	○	○	○	○	×	×	○	可決
第70号 職員の給与に関する条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	可決
第71号 職員の退職手当に関する条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	×	○	○	可決
第72号 幼稚園教育職員の給与に関する条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	×	○	○	可決
第73号 荒川区民会館改修工事請負契約	○	○	○	○	×	×	○	可決
第74号 荒川区民会館電気設備改修工事請負契約	○	○	○	○	×	×	○	可決
第75号 荒川区民会館空調設備改修工事請負契約	○	○	○	○	×	×	○	可決
第76号 荒川区民会館給排水衛生設備改修工事請負契約	○	○	○	○	×	×	○	可決

区議会定例会・11月会議

平成26年度荒川区議会定例会・11月会議は、11月27日から12月9日までの13日間の会議期間で開かれました。

11月会議の1日目と2日目は、8人の議員から区政全般にわたり一般質問が行われました(要旨は2・3面に掲載しています)。
11月会議では、意見書4件、議案16件が原案どおり可決されました。

11月会議日程

11月27日 本会議	11月28日 本会議	12月1日 総務企画委員会 福祉・区民生活委員会	12月3日 文教・子育て支援委員会 建設環境委員会	12月8日 議会運営委員会	12月9日 本会議
---------------	---------------	--------------------------------	---------------------------------	------------------	--------------

掲載記事のご案内



4面 新春を迎えて —各会派新年の抱負— 各会派の構成	3面・2面 区政のことをきく 一般質問要旨 小坂 眞三議員(自民党) 小島 和男議員(共産党) 保坂 正仁議員(公明党) 竹内 明浩議員(民主・市民) 齊藤 裕子議員(元気クラブ) 明戸 真弓議員(自民党) 松田 智子議員(公明党) 瀬野 喜代議員(民主・市民) 意見書提出 採択した請願・陳情
---	--

区政のごとをきく 一般質問要旨

日暮里のまちづくりと観光資源として都電軌道敷の整備・活用を問う



小坂 眞三 (自民党)

日暮里のまちづくりを問う

日暮里駅に架かる紅葉橋は、集中豪雨の時、階段の上から水が流れ落ちてきて、とても歩けないとの声も聞く。架け替えとバリアフリー化が必要と考えるが、現在はどのような状況なのか。

答 紅葉橋の老朽化対策やバリアフリー化等の課題は認識している。現在、JR東日本と共同で橋の健全度調査と耐震診断を実施してお

り、年度内に診断結果が判明する。その結果を踏まえ、耐震補強や架け替え等について、具体的な方針をJR東日本とともに検討する。

問 震災に伴う火災の延焼防止などに永久水利の活用は欠かせず、隅田川の河川水の活用とともに地下水の利用は、飲料水や生活用水の確保という観点からも有用性が高い。そこで、隅田川から距離のある明治通りの南側の防災危険

度の高い地域に対しては、どのように永久水利を整備していくのか。

答 隅田川の河川水や地下水を活用する永久水利事業を、今後も区の防災対策の重要な柱の一つとして位置付け、火災危険度や地域パランス等を考慮した上で区内全域に整備を進めていく。明治通りの南側に位置する日暮里地域においても、危険度の高い地域があることから、深井戸による施設整備を積極的に検討する。

問 観光資源として都電軌道敷を整備・活用してはどうか

答 熊本市、鹿児島市の市電を視察し、軌道敷の芝生の美しさに感動した。芝生化は観光資源として活用できると思うがどうか。また、補助90号線の整備に合わせ、町屋簡素化するなど配慮している。また、長引く景気低迷期を乗り越えた事業者が、将来も区内で発展していくことを期待し実施している。

区民の暮らしと営業を守る施策と第6期高齢者プランを問う



小島 和男 (共産党)

区民の暮らしと営業を守るために

問 高齢者は年金支給が削減され、増税に加え、医療や介護の負担も増大している。高齢者の暮らしを支援する経済的給付を行うべき。

答 紙おむつ助成や住み替え家賃助成等の個別の支援給付だけではなく、高齢者には生きがいを持つて生活することが重要と考える。

問 小中学校の教材教具、学校給

食の公費負担を拡大するなど子育て世代への経済的支援を行うべき。

問 認知症予防運動の早期発見の検診と認知症予備軍の早期発見の検診と、また、認知症コーディネーターの正規配置やサロン事業の拡大等は一般会計で予算を組むべき。

問 三河島駅前南地区再開発の教訓について

問 特別支援学級の人的措置と施設整備を行うこと

問 JRの駅の早期無人化、駅遠隔化システム導入について

空き家対策とふれあい館について問う



保坂 正仁 (公明党)

空き家対策を問う

問 区内でも空き家が多くあるが、衛生面や安全面で問題になることもあり、近隣住民は問題解決を望んでいる。そのため、仮称「空き家の適正管理に関する条例」を策定すべきと考えるがどうか。

答 成立した「空き家対策の推進に関する特別措置法」には、より踏み込んだ規定が盛り込まれており、条例制定の必要性を含め、実効性のある対策に鋭意取り組む。

問 空き家にも様々なタイプがある。実態調査を行い、状態や所有者等に分類し、都とも連携を取り詳細なデータを作るべきと考える。

答 実態調査は空き家への対策を講じていく上で、大変重要であり、新たに活用できる空き家に関する

規模縮小等も勘案し、20館建設の早期実現を最優先に検討する。

問 日暮里ひろば館も老朽化が目立つ。土地確保が困難な中、中学校の土地を活用した新たな利用方法も視野に入れるべきと考える。

答 提案の手法については、庁内の関係部署と連携して実現の可能性も含め、幅広く検討する。

問 日暮里の街づくりについて

問 防災区民組織の意識向上と若返りを図り、目標の平成30年度を待たずに、各区民組織が自立的に

荒川区の防災対策を問う



竹内 明浩 (民主・市民)

荒川区の防災対策を問う

問 消防団の拠点となる分団本部の多くは、標準よりも狭い。団員の待機スペースなどのために分団本部施設用地の確保などの支援を積極的に行うべきではないか。

答 区内において、標準より狭い分団本部が多いことは認識しており、消防団等と相談し、改善に向

け可能な限りの支援を行っていく。

問 避難所開設・運営訓練は、地域間で訓練内容に差がある。段階的にレベルアップを図る中で、最終的な目標及び、いつ頃までどのように進めていくのかを問う。

答 防災区民組織の意識向上と若返りを図り、目標の平成30年度を待たずに、各区民組織が自立的に



避難所開設・運営が可能になるよう支援を強める。

問 災害時のペットの同行避難の際には様々な問題が懸念される。そのため区民全体への周知やペット防災リーダーを養成すべきと考えるがどうか。

答 ペット防災に関する、さらなる情報発信を行う。リーダーの養成は、避難所のルール作りの中で他区の事例を参考にし、関係者や専門家の意見も踏まえ検討する。

中小企業への外形標準課税拡大、介護保険制度の破綻に対し、区として国に言うべきことはないか。



齊藤 裕子
(元気クラブ)

政府税調がすすめる外形標準課税の中小企業への適用拡大について
問 法人税率引き下げの穴埋めに課税対象を拡大するというが、そもそも巨大企業は法定税率どおり法人税を納めていないではないか
答 法人税は繰越欠損金の制度のほか、各種租税特別措置等により課税所得を減額することで、税負

担を軽減していると認識している。
問 赤字の中小企業にまで適用するとなれば区内の事業者への影響は大きい。どう考えるか。
答 区内中小企業へ大きな影響が生じることになると認識している。
問 総選挙の結果、これが実行されれば区の産業振興策に逆行する。国に止めるよう進言すべきだ。

女性の活躍を応援する取り組み及び商店街事業と空き店舗対策を問う



明戸 真弓美
(自民党)

女性の活躍を応援する取り組みを問う
問 男女のワークライフバランスを変革し、女性のライフステージに対応した支援の促進等が必要だ。また、区内の年少人口の増加が見込まれる中、どのように子育て環境を整備するのか。
答 ライフステージに応じ多様な生き方が選択できるよう、ワークライフバランスの推進に取り組んでいる。また、容積率の規制緩和で子育て関連施設等の設置を誘導することや、放課後子ども総合プランでは延長利用を行うなど、子育て環境のさらなる整備を進める。

問 子育てする女性のために、フィンランドの「ネウボラ」や他自治体の制度を参考に母子健康手帳
交付時から各部署が連携し、切れ目ない支援体制が必要ではないか
答 フィンランドの制度を参考に、他自治体と連携して取り組むこと、きめ細やかな支援を行っていることは認識しており、区は今後も一層関係所管との連携を強化する。
問 女性の就労機会の拡充はとても重要だ。日暮里駅前にマザーズ
答 マザーズハローワーク日暮里の利用者は順調に推移している。区はハローワーク利用の前段階にある方を対象とした相談窓口設置やセミナー開催で、ハローワークへの引き継ぎを円滑に行うなど、

地域の中小企業の実情について、必要に応じ国等に申し入れる。介護保険法改正ですすむ制度破綻人手不足、高齢者の困窮について
問 区内の介護職員の賃金実態を調査し、国に処遇改善を求めよ。
答 介護職員の確保は喫緊の課題であり、さらなる処遇改善が必要であると認識している。
その他の質問項目
○東京一極集中を解消し、真の地方創生を推進する方策について



子育て女性の就労を支援する。商店街事業と空き店舗対策を問う
問 街なか商店街と、一店逸品運動の現在の状況はどうか。
答 街なか商店街は35店舗55講座に400人超の受講者が参加し好評を得ている。一店逸品運動は意欲のある12人の店主が、逸品の開発・商品化に取り組んでいる。
問 商店街の空き店舗の活用を促進するため、空き店舗情報を一括して閲覧等できるようにすること
答 空き店舗情報を一括して閲覧できるようにすることは、出店を促進する効果があると考え、商店街等の意向も踏まえ、不動産事業者との連携も視野に取り組み。

その他の質問項目
○子ども達の「自然体験事業」の拡充について

切れ目のない子育て支援策と地域防災力の強化を問う



松田 智子
(公明党)

切れ目のない子育て支援策を問う
問 厚生労働省から母子保健計画策定指針が出され、各自自治体で5年間の計画を策定することになっている。今後、計画の中に、区独自の不妊・不育症の治療費助成事業等を盛り込むよう求める。
答 今年度策定予定の母子保健計画の見直し作業を進めており、不妊・不育治療への区独自の助成制度は他区の動向等を踏まえ、計画の中に位置付けたいと考えている。

問 子育て交流サロンを、親子の見守りの拠点として位置付け、町屋・西日暮里地域にも新設し、充実するよう求める。また、子育て施設でボランティア活動した方に、
換金できるポイントを付与する制度を導入したらどうか。
答 子育て交流サロンが親子の見守りの拠点となることは重要な指摘であり、町屋・西日暮里地域での開設に努める。また、子育て世代との交流に関心のあるボランティアも多く、今後、子育て交流サロンも含め、他の子育て施設への拡大について、一層の充実を図っていく。

問 病児・病後児保育のさらなる充実を図り、また、病児・病後児保育のない地域への開設を行って
答 子育て世帯への調査では、病児・病後児保育の充実を求める声

問 病児・病後児保育のさらなる充実を図り、また、病児・病後児保育のない地域への開設を行って
答 子育て世帯への調査では、病児・病後児保育の充実を求める声

多い。新たな至誠会第二保育園で病児・病後児保育が円滑に実施できるよう調整を進め、今後もさらなる拡充に向け検討する。
地域防災力の強化を問う
問 学校での防災活動の一環として、全ての中学校の部活動に「防災部」を作ってはどうか。
答 中学校への防災部の設置は、将来の地域の中核となる人材の育成に結びつく非常に重要な提案と考える。各関係機関と協力し、校長会と具体的な検討を行う。

問 防災訓練は、他自治体の例も参考に、D級ポンプ操作やバケツリレー等を行う「防災運動会」形式で開催し、地域コミュニティの強化に資する内容にしてはどうか。
答 防災運動会は、幅広い年代層の参加が見込まれ、参加者の絆も強まり、防災意識等を高める効果が期待できるので検討する。
その他の質問項目
○若者世代の支援策について
○東尾久・西日暮里地域の街づくりについて

問 若者世代の支援策について
○東尾久・西日暮里地域の街づくりについて

食と農を身近に考える環境づくり&女性の活躍応援について問う



瀬野 喜代
(民主・市民)

食と農を身近に考える環境づくりを問う
問 エコセンターの畑を拠点として、イベントや菜園講習会、生産者との交流などを行う「食と農の祭典」を開催してはどうか。
答 提案の「食と農の祭典」は、関連部署と連携して、どう取り組んでいけるか研究する。

問 学校での農体験が大切だ。ひぐらし小では第二校庭がなくなる。
答 学校の農体験が大切だ。ひぐらし小では第二校庭がなくなる。

問 学校での農体験が大切だ。ひぐらし小では第二校庭がなくなる。
答 学校の農体験が大切だ。ひぐらし小では第二校庭がなくなる。

問 学校での農体験が大切だ。ひぐらし小では第二校庭がなくなる。
答 学校の農体験が大切だ。ひぐらし小では第二校庭がなくなる。

意見書提出

11月会議では4件を可決し、関係機関に提出しました。

「女性が輝く社会」の実現に関する意見書
(衆議院議長・参議院議長・内閣総理大臣・財務大臣・総務大臣・文部科学大臣・厚生労働大臣・経済産業大臣・国土交通大臣・女性活躍担当大臣あて)

地域の中小企業振興策を求める意見書
(内閣総理大臣・財務大臣・厚生労働大臣・経済産業大臣あて)

不燃化特区などによる従前居住者のための住宅について都営住宅の活用を求める意見書
(東京都知事あて)

JR東日本に地元自治体への説明を求める意見書
(内閣総理大臣・国土交通大臣あて)

採択した請願・陳情

採択
・荒川区の学童保育の延長保育の実施と保育時間の見直しについての陳情
趣旨採択
・議会傍聴時における資料配布を要望する陳情
・請願者及び陳情者の趣旨説明の場を求める陳情

採択
・荒川区の学童保育の延長保育の実施と保育時間の見直しについての陳情
趣旨採択
・議会傍聴時における資料配布を要望する陳情
・請願者及び陳情者の趣旨説明の場を求める陳情

各一般質問の詳細については、現在作成中の会議録ができました。区立図書館及び区役所2階の情報提供コーナーにおいて閲覧できます。
また、荒川区議会ホームページで平成13年5月以降の本会議録を検索することができます。あわせてご利用ください。

平成26年度荒川区議会定例会・2月会議は、2月中旬に開かれる予定です。



新春を迎えて

各党派新年の抱負



自民党

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

現在、我が国は、デフレからの脱却に向け、まさに正念場を迎えております。政府は、昨年末に消費増税の先送りを判断し、アベノミクスと呼ばれる経済対策を一層強力に進めておりますが、区民の皆さまが景気回復を実感できるところまで来ておりません。

私たち自民党区議団は、区民の皆さまのご要望を確実に把握し、弱い立場の方々をはじめ、必要ならに必要サービスを提供するとともに、そのための財源を生み出すさらなる行政改革の徹底と健全性を維持した積極的な財政

運営を行うことを基本理念として、西川区政を支え、「自助」を基本に「共助」と「公助」が補完し合う安全・安心な地域社会の実現に向け全力を尽くしてまいります。

【防災対策】
待ったなしの状況にある巨大地震等への対策として、災害に強いまちづくりに向け、東京都の不燃化特区制度の適用を広く「町屋・尾久地域」に拡大し、木造密集地域の改善や建物の耐震化を進めます。東京都水道局・下水道局に対しては上下水道施設の耐震化の促進を要請します。今後は防災用深井戸の設置拡大を図ってまいります。

【子育て支援】
町屋地区の保育需要にこたえるため移転新設し、跡地に長年自民党が要望してきた私立幼稚園を誘致します。また、ここにこすくー

るを拡充するとともに、学童クラブと一体となった総合型事業を展開してまいります。

【健康・福祉・障害者支援】
全ての区民が生涯にわたって健康に暮らすことができるよう、介護サービスの質の向上、介護予防対策の充実、早世予防、健康増進策の推進に努めます。35〜39歳健診、糖尿病対策事業を推進します。また、障害者の就労支援対策や、親なき後の対策についても充実を図ってまいります。

公明党

初春を寿ぎ、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

公明党は昨年、結党50周年を迎えることができました。政党の離合集散が激しい中で、50年の歴史を刻むことができました。結党時から「平和の党」「大衆福祉の党」を掲げ、いつでも生活者のそばにいる政治を貫き通してまいりました。

私たち公明党区議団は昨年10月平成27年度予算に関する要望書『あらかわ公明アクションプラン』を荒川区に提出いたしました。主なものを挙げてみますと

- ①公会計制度改革の推進
- ②不妊・不育治療対策の推進
- ③認知症予防対策として認知症カフェの設置
- ④子どもの健康と安全な居場所づくりの推進
- ⑤各障害（身体・知的・精神）に対する就労支援体制の充実
- ⑥子どものスポーツ活動の普及および充実を図るための環境整備
- ⑦ふれあい館20館構想の早期実現
- ⑧観光による地域の活性化
- ⑨子どもを犯罪から守る安全対策の充実
- ⑩空き地・空き家の所有者へ適正管理の指導強化等々

これからも私たち公明党区議団6名は「大衆とともに語り、大衆とともに戦い、大衆の中に死んでいく」との立党精神のもと、次の50年を目指し、どこまでも「現場第一主義」に徹し、社会保障の充実・軽減税率の導入等、区民に寄り添いながら地域の課題に全力で取り組んでまいります。

共産党

新年おめでとうございます。

昨年末、共産党区議団の第23回区民アンケートには、景気回復の実感について「全くない」「一部大企業、お金持ちだけ」「消費税10%増税は止めて」など暮らしや政治への多くの声が寄せられました。

いま安倍政権による増税不況が、区民の暮らしと営業を脅かしています。来年度は、年金削減に加え、要支援のサービス取り上げ、各種医療保険料値上げなど社会保障削減計画が目白押しで、消費税増税も計画されています。共産党区議団は、区民の声で区政を動かす立場で、荒川区が、暮らしの防波堤の役割を發揮する事を求めてがんばります。真のムダを省き、暮らし最優先の予算編成を求めます。

民主・市民

新年のご挨拶を申し上げます。

壊れないまち・燃えないまち、災害に強い街づくり、そして子どもから高齢者まで「癒しの場と活躍の場のあるまち荒川区」を目指し取り組んで参ります。

【福祉】認知症カフェの全地域での展開、区民の手による介護予防拠点の増設、母子手帳交付時の対応改善・児童虐待に対する職員の意識向上及び体制強化。

【子育て・教育】老幼のうたごえ・読み聞かせ運動の展開、学校トイレの洋式化の改修整備促進、みなし寡婦控除の適用。

【環境】食品ロスを減らす運動への区民参画の保障、都電電停の駐輪場整備、鉄道騒音の定点調査の実施、西日暮里駅周辺の環境整備マシオン適正維持管理の推進。本年も誠心誠意頑張って参ります。

【防災】洪水ハザードマップの見直し及び水害危険性の周知とサイン標示設置、各避難所のペット防災の普及啓発、スタンドパイプの全町会・自治会への配備、防災女性リーダーの育成。

元氣クラブ

円安、増税、物価高。『生きられる町、暮らせる政治。』をめざし、今年も既成政党にかわる区民の代表として働きます。 斉藤ゆうこ

日本創新党

天皇弥栄。素晴らしい日本の縦糸は今を生きる方々の幸せの基盤。戦ってでも大切なものを守る覚悟を持ち誇りある日本を荒川区から。

正論の会

パソコンでは考える力はない。日本語の素読・音読を小一から始め日本語で考える力を身につけ、小中一貫教育で教育改革を実践。

改革の会

新年おめでとうございます。荒川区の未来の為に、震災対策・教育・子育ての充実、高齢者が元気で活躍できる社会を目指します。

各党派の構成

(平成26年12月26日現在)

<p>自由民主党 荒川区議会議員団 12人</p> <p>幹事長 鳥飼 秀夫 副幹事長 志村 博司 副幹事長 明戸真弓美</p>	<p>公明党 荒川区議会議員団 6人</p> <p>幹事長 吉田 詠子 副幹事長 中村 尚郎</p>	<p>日本共産党 荒川区議会議員団 6人</p> <p>幹事長 横山 幸次 副幹事長 小林 行男 安部キヨ子 斉藤 邦子 相馬 堅一 小島 和男</p>	<p>民主・市民の会 3人</p> <p>幹事長 竹内 明浩 副幹事長 瀬野 喜代 清水 啓史</p>	<p>日本創新党 1人</p> <p>幹事長 小坂 英二</p>	<p>あらかわ正論の会 1人</p> <p>幹事長 浅川 喜文</p>	<p>改革の会 1人</p> <p>幹事長 藤澤 志光</p>
---	---	---	--	---	--	--